

ボクを迎えに来ないでね！

岩手県の三陸沿岸地方は、昔から何度も津波の大きな被害を受けてきました。

その三陸沿岸には、明治時代や昭和時代に津波を経験した先人の知恵で『津波てんでんこ』と言われる、津波が来たら「肉親にも構わず各自てんでんばらばらに高台へ逃げる」共倒れを防ぐための『避難行動』があります。

釜石市の防災教育プログラムでは、この「津波てんでんこ」の教えを継承し、子供が親に対して、家族団らん時に次のように宣言する場面が設けられています。

子供：「ボクは津波から必ず逃げ切るから、ママはボクを迎えに来ないでね！ボクと別々になってもママも必ず逃げ切つてね、そして僕が無事に生きていると信じてね！
後で必ず会えるからね・わかったママ！！」

この指導が親子の「信頼関係構築」に成功し、東日本大震災の釜石市の津波死者・行方不明者1,400名のうち、小・中学生の親御さんの犠牲者は40名と他の地域よりも極端少ない。「我が子は生きて逃げています」と迎えに行かず「親子で信頼しあう津波てんでんこ」を貫きました。

釜石市の小・中学生の生存率も99.8%と、ほぼ100%に達し、残念ながら病气や早退などで学校にいなかった小・中学生5名が犠牲となったと報告されています。

まとめ…親子といえども相手の目を見て、自分の言葉で思いを伝えてこそ、信頼関係が生まれます。

「我が子は、きっと大丈夫！逃げ切ってくれるだろう」と親が一方的に思うだけでは、意思が子どもに伝わらず、わが子の命を守ることができません。

今すぐ、家族全員で真剣に話し合う時間を設けてください！

◆今日の言葉…子は親の鏡。防災に無頓着な親の子も防災に無頓着になり孫の代まで継承する。まずは、親が防災に興味を示し、子供にその背中を見せましょう！

今日の気づき

防災朝礼
ストーリー【3】

◎防災のセカンドオピニオンになります！ 一般社団法人 防災プロジェクト
◎個人・法人どちらも対応！ご相談はお気軽に！<http://防災プロジェクト.com/>

※本文を転載・記載する場合、「出典先（一社） 防災プロジェクト」と明記をお願いします。